

記入例

第62回（令和年6度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書  
「直播栽培部門」・生産グループの部（案）

推薦者 ○○地区米麦改良協会 会長理事 ○○ ○夫 印

調書の内容は誤りのないことを確認した。

振興局 農業改良普及センター 所長 ○○ ○平 印

検査（出荷）実績を証明する。

農産物検査員

北海道農産協会所属  
JA○○農産物検査員 ○○○雄 印

1 対象者 (ふりがな) まるまるちょうすいとうちよくはけんきゅうかい  
生産グループの名称 ○○町水稻直播研究会  
(ふりがな) まるやままるじ・ほっかいどうまるまるぐんまるまるちょう1ばん23ごう  
代表者氏名・住所 ○山○次・北海道○○郡○○町○○1番23号

2 経営状況 耕地面積 42.6 ha (注) 田・畑などの合計面積

| 年次<br>項目 | 令和4年                | 令和5年                | 令和6年               | 3カ年の平均             |
|----------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| 水稻作付面積   | 36.4 ha<br>( 14.2 ) | 38.4 ha<br>( 10.4 ) | 34.4 ha<br>( 2.9 ) | 36.4 ha<br>( 9.2 ) |

(構成する生産者の合計面積を記入)

注1) 移植栽培を含む、水稻作付全面積。※加工用米等面積も含める。( )は移植栽培面積。

注2) 今年を含む直近3年間。ただしその間、作付不可能の事由がある場合を除く。

3 構成生産者の状況 (戸・人)

|      | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 |
|------|------|------|------|
| 戸数   | 6    | 7    | 7    |
| 従事者数 | 10   | 11   | 11   |

4 耕種概要

(1) 直播区分 (湛水直播・乾田直播の別) および直播作付品種 (単位: ha)

| 区分   | 年次        | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 |
|------|-----------|------|------|------|
|      | 品種名 (用途)  |      |      |      |
| 湛水直播 |           |      |      |      |
|      | 合計        |      |      |      |
|      | 大地の星 (業務) | 22.2 | 28.0 | 31.5 |
| 乾田直播 | 合計        | 22.2 | 28.0 | 31.5 |
|      | 直播合計      | 22.2 | 28.0 | 31.5 |
| (備考) |           |      |      |      |

注1) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積を記入する。ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする (飼料用米は不可)。

注2) 品種名の後の用途は、一般または業務とする。

(2) 融雪促進、土作り等 (当該グループの代表事例を記入)

| 項目                       |     | 年次      |         |         |
|--------------------------|-----|---------|---------|---------|
|                          |     | 令和4年    | 令和5年    | 令和6年    |
| 融雪促進または<br>土壌改良材(kg/10a) | 資材名 | ケイカル    | ケイカル    | ケイカル    |
|                          | 施用量 | 100kg   | 100kg   | 100kg   |
| 透排水性改善                   |     | 心土破碎    | 心土破碎    | 心土破碎    |
| 稲わらの処理法                  | 前年産 | 春鋤込     | 10%     | %       |
|                          | 当年産 | 搬出      | %       | 100%    |
|                          |     | 秋鋤込     | 90%     | %       |
| 堆厩肥施用量(kg/10a)           |     | 1,000kg | 1,000kg | 1,000kg |
| (備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施  |     |         |         |         |

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、直播面積に対する割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

(3) 施肥量等 (当該グループの代表事例を記入)

| 項目             |        | 年次   |     |     |      |     |     |      |     |     |
|----------------|--------|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|
|                |        | 令和4年 |     |     | 令和5年 |     |     | 令和6年 |     |     |
|                |        | N    | P   | K   | N    | P   | K   | N    | P   | K   |
| 基肥<br>(kg/10a) | 全層     | 8.0  | 7.3 | 7.3 | 8.0  | 7.3 | 7.3 | 8.0  | 7.3 | 7.3 |
|                | 表層     |      |     |     |      |     |     |      |     |     |
|                | 側条     |      |     |     |      |     |     |      |     |     |
| 追肥             | kg/10a | 3.6  |     |     | 3.6  |     |     | 3.6  |     |     |
|                | 期日     | 6.25 |     |     | 6.24 |     |     | 6.23 |     |     |
| (備考) 3カ年とも倒伏なし |        |      |     |     |      |     |     |      |     |     |

注) 肥料銘柄(肥効調節型等)、倒伏程度を備考欄に記載する。

(4) 出芽促進技術(種子予措・落水期間等) 苗立ち確保技術、播種時期、播種量等

(当該グループの代表事例を記入)

| 項目  |                  | 年次          |             |             |
|---|------------------|-------------|-------------|-------------|
|   |                  | 令和4年        | 令和5年        | 令和6年        |
| 播種方法  |                  | 乾田ドリル播種     | 乾田ドリル播種     | 乾田ドリル播種     |
| 出芽方法  |                  | 落水出芽        | 落水出芽        | 落水出芽        |
| 種子予措  | 種子消毒剤            | なし          | なし          | なし          |
|   | カルパー粉衣%<br>(乾粒比) | なし          | %           | なし          |
|   | その他              | なし          | なし          | なし          |
| 播種時期  |                  | 5月 14日~ 月 日 | 5月 13日~ 月 日 | 5月 12日~ 月 日 |
| 播種量(乾粒換算重)  |                  | 12 kg/10a   | 12 kg/10a   | 12 kg/10a   |
| (備考) 播種後 2日間程度入水後、落水。<br>落水期間 R4: 17日間(出芽5/25) R5: 出芽5/27頃までに土壌水分に合わせて数回走水を行った R6: 出芽5/22頃までに、土壌水分に合わせて走水、水持ちの良い場合は15日間落水 |                  |             |             |             |

注) 種子予措の該当しない項目は、「なし」と記載する。落水期間(または走り水月日)を備考に記載する。

(圃場環境の整備)

- ・均平施工 有 (R4年) ・ 無
- ・田畑輪換又は移植栽培との交換 有 (R6年) ・ 無
- ・漏水対策 有 (毎年) ・ 無

(5) 除草剤・生育調節剤等 (当該グループの代表事例を記入)

| 除草剤名等           | 処理時期  | 効果 | 残草程度・種類等 |
|-----------------|-------|----|----------|
| ①ラウンドアップマックスロード | 5月30日 | 大  | 少        |
| ②ラウンドアップマックスロード | 6月5日  | 大  | 微        |
| ③               |       |    |          |
| ④               |       |    |          |
| (備考)            |       |    |          |

(6) 乾燥方式 (構成生産者の取組比率を記入)

- ・ 連続乾燥 ( 年～ 年)
- ・ 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 ( 28年～ 令和6年) 【90%】
- ・ 遠赤外線乾燥 ( 28年～ 令和6年) 【10%】
- ・ 除湿乾燥 ( 年～ 年)

5. 産米出荷成績 (構成する生産者の合計値を記入)

| 項目        | 年次      | 令和4年   | 令和5年   | 令和6年   | 3カ年の合計 |
|-----------|---------|--------|--------|--------|--------|
|           | 総出荷数量 ① |        | 2,500俵 | 2,700俵 | 2,300俵 |
| 製品出荷数量 ②  |         | 2,400俵 | 2,600俵 | 2,300俵 | 7,300俵 |
| 一等米数量 ③   |         | 2,400俵 | 2,600俵 | 2,300俵 | 7,300俵 |
| 一等米比率 ③/② |         | 96%    | 96%    | 100%   | 97%    |

注) 俵数は60kgに換算のこと。

①の数量は直播栽培面積からのすべての出荷数量(規格外・加工用米等を含む)を記入し、

②③の数量は、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量、一等米数量とする。

ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする(飼料用米は不可)。

6. 病虫害防除の実施状況

- (1) 病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応型防除に努めている。
- (2) いもち病に関しては、ブラスタムの活用およびほ場の見回りを実施。
- (3) カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

7. 直播栽培に当たっての創意工夫のある取り組み等(低たんぱく米生産等の取り組みも含む、具体的に記載して下さい。)

(枠の範囲にこだわらず、次ページにまたがっても良い)

- (1) 田畑輪換による復元田の窒素発現を利用して、直播栽培の収量向上に努めている。
- (2) 深根性の作物(デントコーン等)を輪作に取り入れて耕盤層を破碎し、土壌物理性の改善に結びつけている。
- (3) 残渣物の鋤込みにより、地力維持に努めている。

8. 直播栽培に係わる経営的な視点(生産グループとしての特徴的な・先進的なポイントも含む、具体的に記載して下さい。)

- (1) 機械の共同購入・共同利用に取り組み・・・。
  - (2) ローテーション作物の共同集荷により・・・。
  - (3) 耕畜連携の取り組みにより・・・。
- ・その他、別記参照

## 9. 添付書類

### (1) 令和6年産米栽培履歴

以上

-----  
上記内容について、第62回（令和6年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道農産協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、優良事例報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

令和6年〇〇月 〇日

生産者グループ名称 〇〇町クリーン米生産組合

代表者住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号

代表者氏名  〇山 〇次  印

### (別記)

経営の観点の記入例

#### 1. コスト低減の取組み

##### (1) 省資材

- ・JAおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施して、適正施肥・肥料コスト低減に努めている。

##### (2) 共同利用その他

- ・機械・倉庫設備の償却資産の延長を図り、機械修理等については自ら実施し必要最小限の修理コストで機械管理を行っている。
- ・低コスト生産を目的として、乾燥調製施設、コンバイン、ドローン等の共同利用が各地区で行われている。乾燥調製においては、4施設あり、11戸1法人が共同利用している。

#### 2. さらなる省力化の取組み

- ・本年より薬剤のドローン防除や無人ロボットトラクターの運用も一部で開始した。将来的には経営の複合化や経営規模の拡大を目指している。